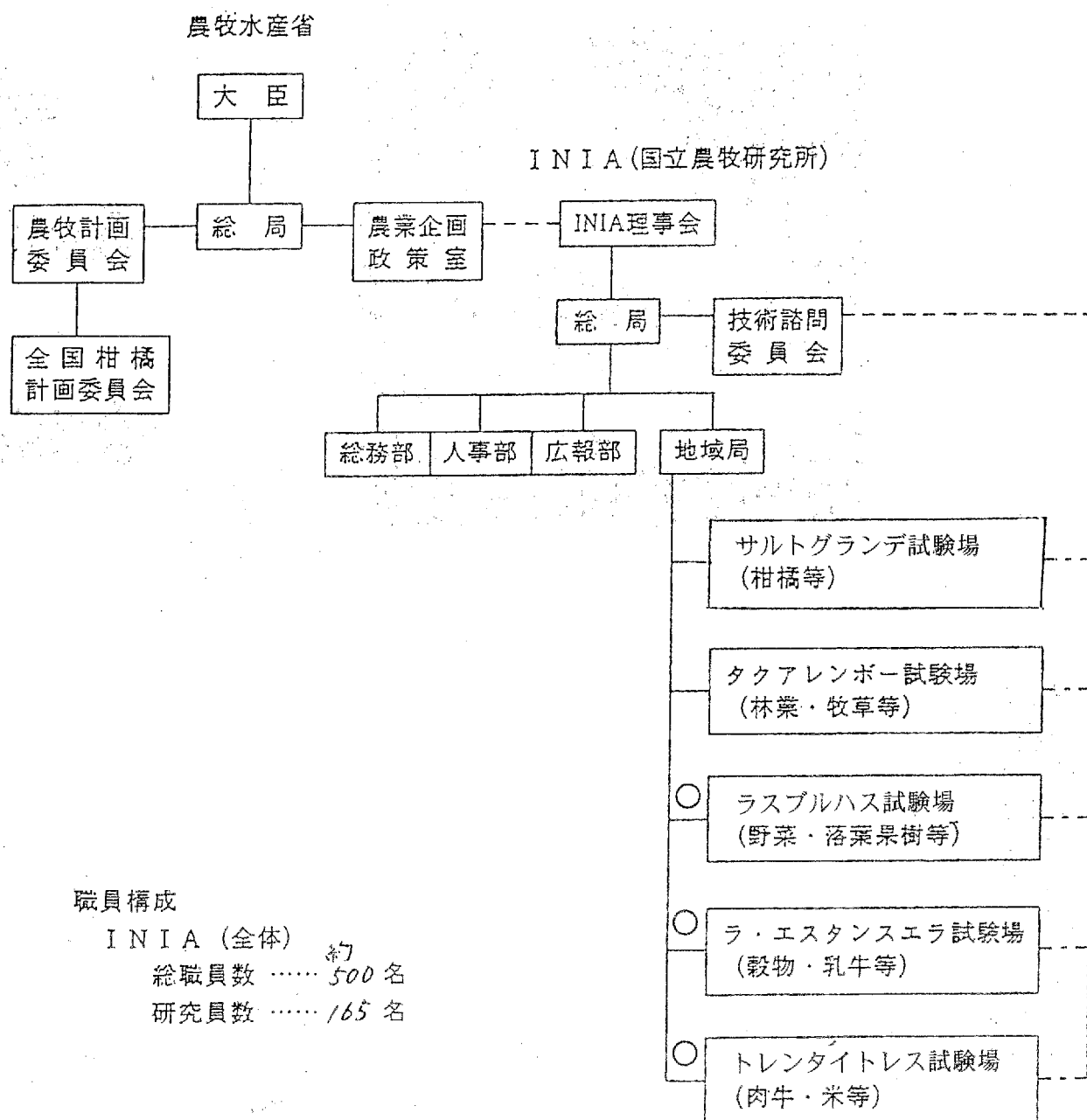


付 属 資 料

- 1．ウルグアイ実施機関（INIA）組織図・組織概要
- 2．ヴェネズエラ実施機関（FONIA/CENIAP）組織・所在地
- 3．両国に対する日本の植物遺伝資源関連分野での技術協力
- 4．収集関連資料一覧

付属資料1. ウルグアイ実施機関 (INIA) 組織図・組織概要



職員構成

INIA (全体) 約

総職員数 …… 500 名

研究員数 …… 165 名

○：今回視察を行った試験場

Priority setting and research programs

The most important commodities produced in the country are included in INIA research programs. Thirteen research programs including one or more related commodities are actually being conducted in the institution. These programs have been grouped into 4 areas, each one including related commodities or group of commodities. Priority setting, has been the result of a deep analysis where the following factors have been considered:

- 1) socio-economic importance of the commodity
- 2) assessment of Regional Advisory Councils,
- 3) technical and economic analysis of INIA staff and INIA, Regional and National Direction,
- 4) outside technical assessment from international consultant,
- 5) available human and physical resources,
- 6) the relative financial contribution of the commodity to the institution budget.

AREA	TB	LB	TT	LE	SG	PROGRAM
CROPS PRODUCTION 穀物						WINTER CROPS
						SUMMER CROPS
						RICE
						CROPS EVALUATION
ANIMAL PRODUCTION 畜産						PASTURES
						BEEF CATTLE
						DAIRY CATTLE
						SHEEPS AND GOATS
HORTICULTURE 園芸・疎菜						NON RUMINANT ANIMALS
						VEGETALES
						DECIDUOUS FRUIT AND GRAPES
						CITRUS
FORESTRY 林業						FORESTRY

TB INIA TACUAREMBO LB INIA LAS BRUJAS TT INIA TREINTA Y TRES
LE INIA LA ESTANZUELA SG INIA SALTO GRANDE

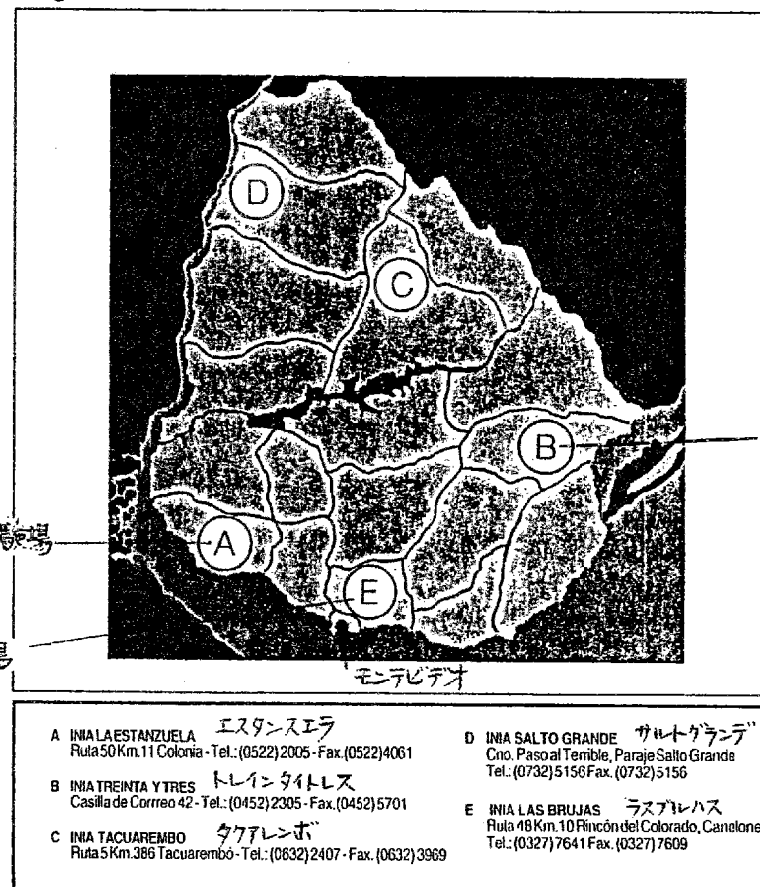
NATIONAL PROGRAM HEADQUARTERS PROJECT PROGRAM LOCALIZATION

In general, INIA technological recommendations are essentially oriented to improve export competitive capacity of the farmers, under conditions of increased profit and sustainability of the human and natural resources of production.

The approach has been taken with careful consideration of government agricultural development policies and, farmer needs. Also the already known technological knowledge developed elsewhere has been considered in order to more efficiently utilize financial resources.

As shown in this map, INIA has a network of 5 Experiment Stations, the activities of which covers the entire country and the most important crop and animal production commodities.

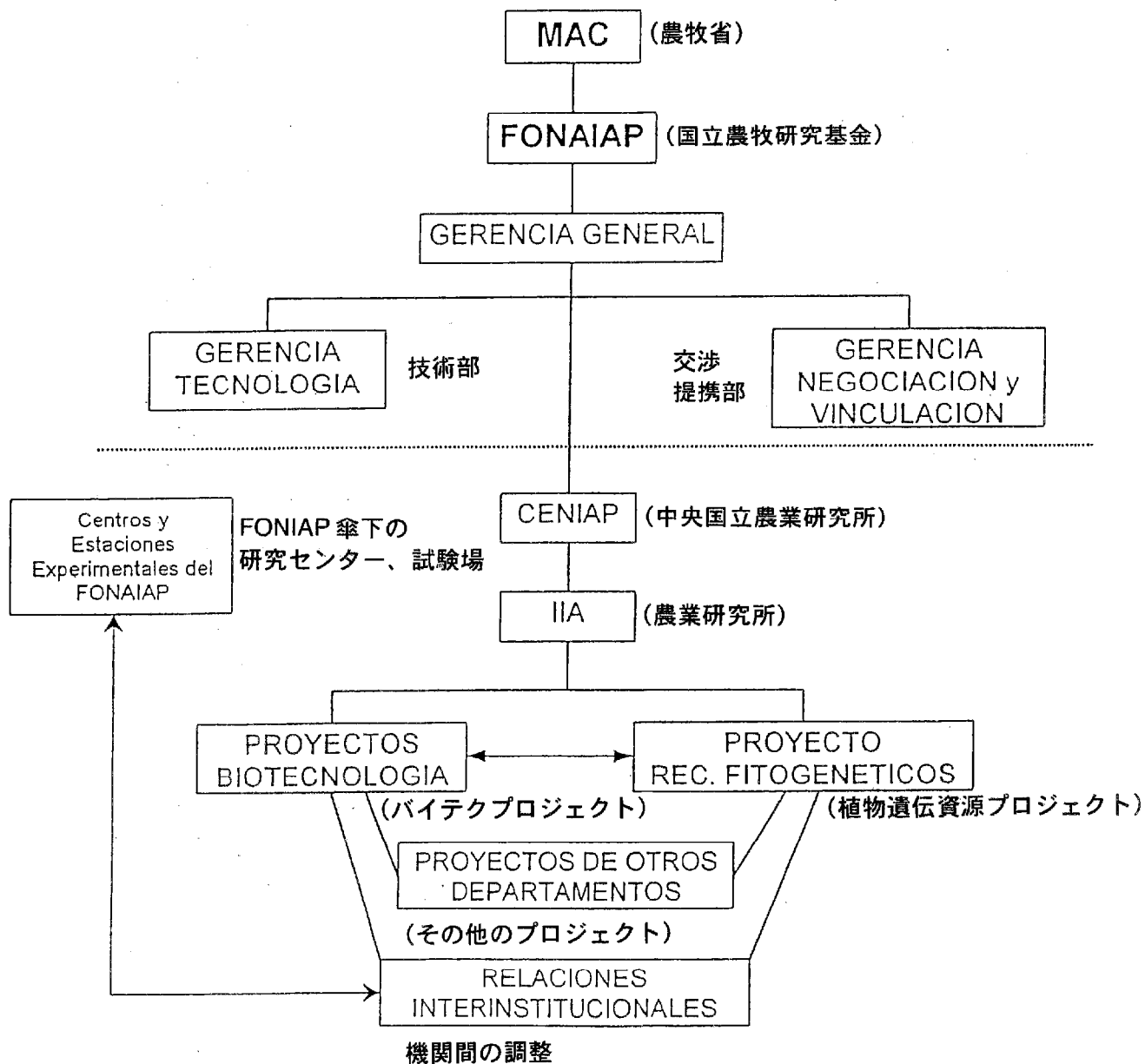
Regional Addresses



INIA
Instituto Nacional de Investigación Agronegocios

RELACIONES INTERINSTITUCIONALES EN LAS AREAS DE RECURSOS FITOGENETICOS Y BIOTECNOLOGIA EN VENEZUELA

(植物遺伝資源／バイオテク分野での関係機関関連図)



運 営 委 員 会

事 務 総 局

FONAIAP / CENIAP

本 部

試 験 圃

中央試験場

支 場

AMAZONAS

MARACAY

SANTA CRUZ

ANZOATEGUI

MANTECAL

APURE

CDAD. BOLIVIA

BARINAS

SABANETA

DTD. FEDERAL

LAS PIEDRAS

FALCON

QUIBOR

GUARICO

VALLE LA PASCUA

Loma de León

GUANAPITO

LAS CUIBAS

LARA

BAILADORES

MERIDA

Truchicola la Mucuy

MUCUCHIES

MIRANDA

PADRON

MONAGAS

TUCUPITA

CARIPE

STA. BARBARA

PORTUGUESA

AQUA BLANCA

LAS MAJAGUAS

SUCRE

PORLAMAR

IRAPA

CARIACO

TACHIRA

PUEBLO HONDO

Truchicola
Son José de Bolívar

GAUSDUALITO

YARACUY

EL CENIZO

TRUJILLO

Truchicola Bocono

ZULIA

EL GUAYABO

CARRASQUERO

CHAMA

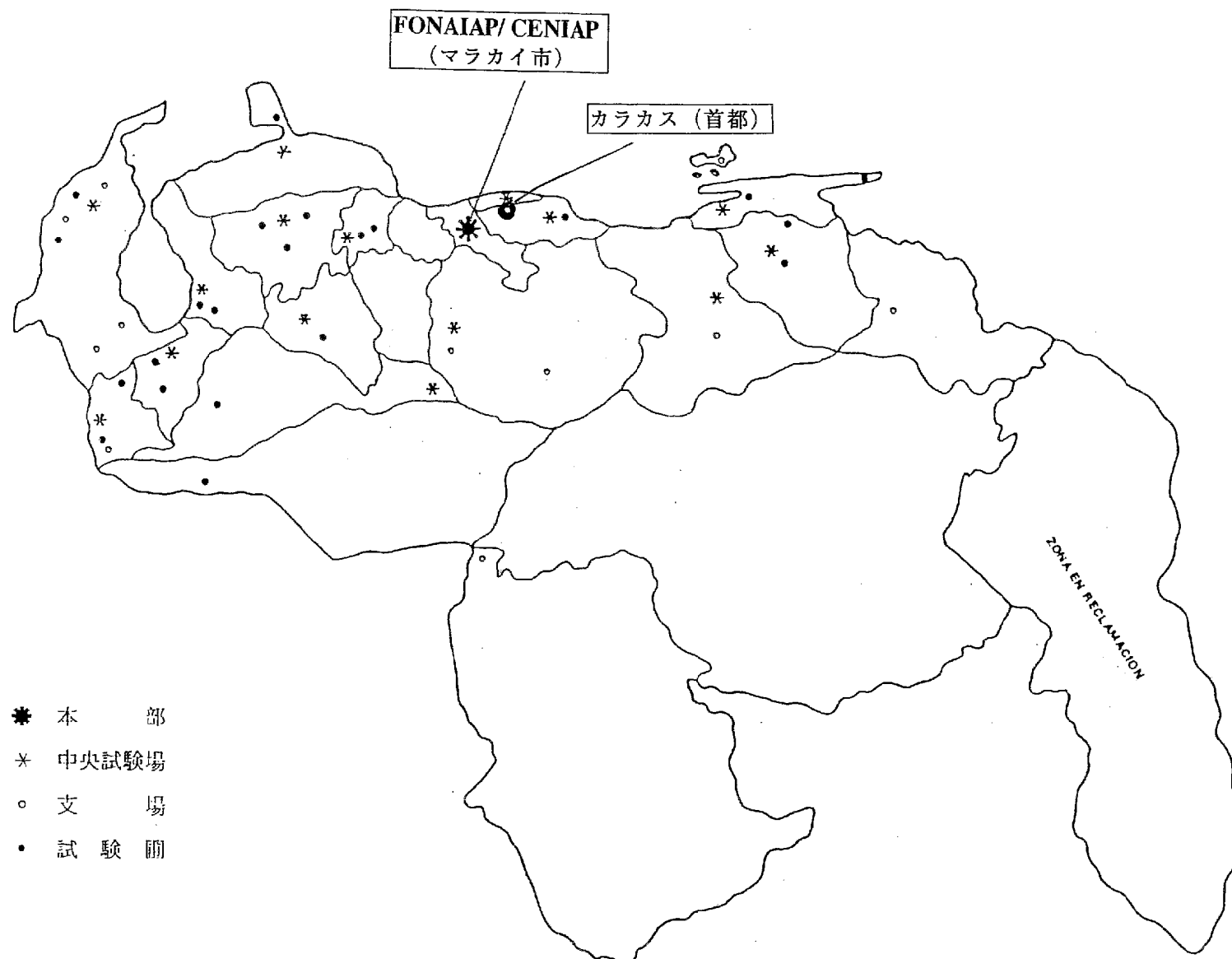
EL LAGO

PERIJA

LA CANADA

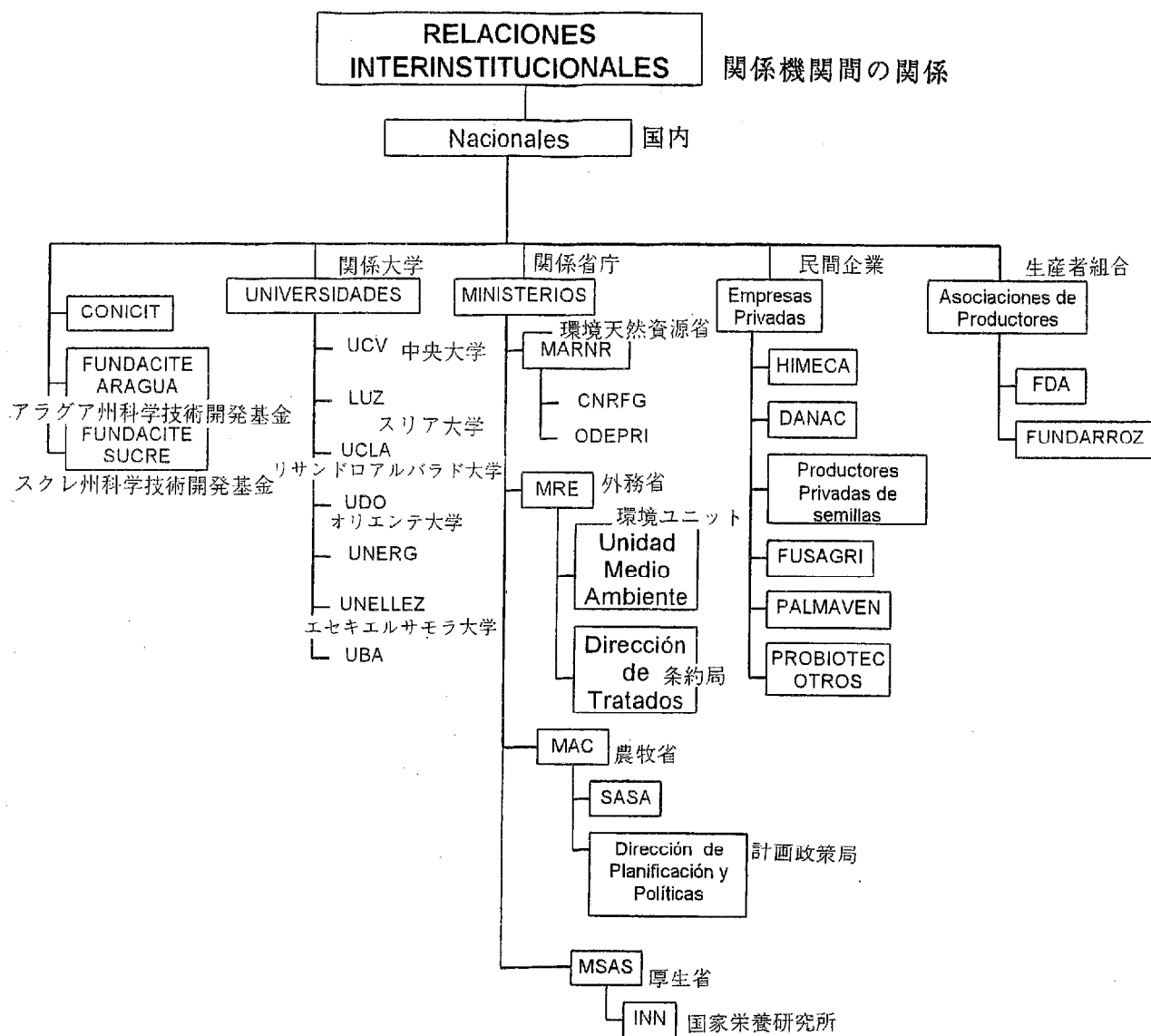
: FONAIAP.1988.Plan
Operativo 1988.

FONAIAPの全国組織



FONAIAP (国立農牧研究基金) 関連機関の分布

植物遺伝資源関連分野にかかわるヴェネズエラ国内関係機関関連図



付属資料 3. 両国に対する日本の植物遺伝資源関連分野での技術協力

1. チリにおける第三国研修「植物遺伝資源の管理と利用」：

1995年まで2年間のフォローアップ協力を含め計7年間実施されたプロジェクト方式技術協力「植物遺伝資源計画」によりチリ農牧研究所（INIA）に移転された技術をもとに、世界的に極めて重要な植物遺伝資源を保有しながらその収集・保存・管理体制が立ち遅れている中南米地域のレベルアップを図るべく1995年より1999年に渡りチリINIA（農牧研究所）にて実施され、南米地域から毎年十数名の研究者を受入れを実施。なお当該研修の概要は以下の通り

①プロジェクト目標：研修参加者が植物遺伝資源に関し。以下について獲得する。

- ・探索・収集技術
- ・保存と利用技術
- ・遺伝資源の情報管理手法
- ・遺伝資源の評価手法
- ・ラテンアメリカにおける最新の知識

②投入

日本側：短期専門家の派遣／参加者の旅費・日当宿泊のための財政的支援／コース実施に必要な諸経費の負担

チリ側：講師等実施に必要な人員の配置／施設・機材の使用

－受け入れ実績－

- ・ウルグアイ：4名（1995、1996、1997、1998）
- ・ヴェネズエラ：4名（1995、1996、1997、1998）

2. 本邦研修：以下の2コースを実施（コース概要等別添参照）

1) 「農業生産のための遺伝子操作技術コース」（1993～）

大阪国際センターにて実施。

主な研修実施機関：大阪府立大学

－受け入れ実績－

- ・ウルグアイ：2名（1997、1998）
- ・ヴェネズエラ：1名（1996）

2) 「植物遺伝資源コース」（1982～）

筑波国際センターにて実施。

主な研修実施機関：農林水産省農業生物資源研究所

－受け入れ実績－

- ・ウルグアイ、ヴェネズエラからの研修員受入実績無し
（但しH11はウルグアイINIAから受け入れを予定）

3. プロジェクト方式技術協力：

両国において植物遺伝資源分野での実績は無いがウルグアイにおいてはINIAをカウンターパート機関として農林業プロジェクトを以下のとおり実施してきた実績あり。

- 1) 「野菜研究計画」 (1978～1983) →ラスブルハス試験場
- 2) 「野菜研究計画A/C」 (1987～1988) →ラスブルハス試験場
- 3) 「果樹研究計画」 (1986～1993) →ラスブルハス試験場
*：当協力期間中に組織培養棟とバイオ機器を供与
- 4) 「果樹保護技術改善計画」 (1995.3～2000.2) →サルトグランデ試験場
- 5) 「林木育種計画」 (1993.3～1998.3) →タクレンボ試験場

4. 個別専門家派遣：

両国において植物遺伝資源分野での実績は無いが平成11年度は両国において同分野での派遣要請が以下のとおりあがっている。

- 1) ウルグアイ
 - ・指導分野：農業遺伝資源研究開発
 - ・期間：3ヵ月 (1999.8.～)
 - ・配属機関：国立農牧研究所 (INIA) ラスブルハス試験場

(詳細は別添のとおり)

*：植物遺伝資源分野の協力要請内容構築の支援の為に要請があがっている。

- 2) ヴェネズエラ
 - ・指導分野：植物培養及び遺伝子資源研究
 - ・期間：24ヵ月 (1999.11.～) *
 - ・配属機関：国立農牧研究基金 (FONAIAP) 農業試験場 (IIA)

(詳細は別添のとおり)

*：24ヵ月長期から短期での派遣で調整中

別添「農業生産のための遺伝子操作技術コース」(H11 実施要領より)

1. コース名など

(1) コース名

和 文 : 農業生産のための遺伝子操作技術

英 文 : Introductory Gene Manipulation for Agriculture

(2) 研修期間

a. 全体受入期間：平成11年7月26日(月)～平成11年12月 5日(日)

b. 技術研修期間：平成11年8月16日(月)～平成11年12月 3日(金)

(3) 定 員

8名

2. コースの目的・背景

(1) 目 的

農業関連分野において直面している諸問題を解決するために、開発途上国ではバイオテクノロジー技術の導入が求められている。

研修員は本コースでアグロバクテリウムを用いた高等植物細胞の細胞育種技術について講義を受けるとともに実習し、遺伝子操作の基本技術を習得する。

(2) 背 景

地球規模で見られる急激な人口増加は多くの解決すべき問題をわれわれに突きつけている。特に開発途上国では農業生産環境の悪化に伴う食糧危機や栄養失調症の増加は深刻な事態に至っている。

これらの諸問題を解決する手段として遺伝子操作技術を含むバイオテクノロジーがある。しかし開発途上国にはこれらの問題解決のために必要なバイオテクノロジーを研究する技術者が絶対的に不足しているのが現状である。したがってこのようなバイオテクノロジー技術の開発途上国への移転が進めば食糧増産に大きく貢献するものとして期待されている。

3. 到達目標

遺伝子操作に関連する基礎的技術を習得する。

核酸の抽出・分離、制限酵素によるDNAの処理、目的遺伝子発現物の同定と定量、アグロバクテリウムを使った形質転換、PCR法によるDNAの増幅、核酸・タンパク質の配列決定など

4. 研修項目（カリキュラム）

（1）オリエンテーション

大学組織、施設、設備、職員の紹介／コンピュータLANの紹介・説明

（2）講義

- a) 機器の取り扱い
- b) 生物の取り扱い（組み換え体実験指針を含む）
- c) 遺伝子操作の農業および工業的利用の概論
- d) 微生物培養法、植物細胞の培養法
- e) DNA抽出と分離法
- f) 核酸、タンパク質の電気泳動
- g) 形質転換法
- h) 核酸の酵素処理法
- i) 形質転換産物の検出と同定法
- j) PCR法、DNA合成法と配列決定法
- k) 微生物組み換え体の応用（農薬としての利用、廃棄物からの有用成分への変換etc.）
- l) 微生物転換酵母の応用
- m) 植物細胞の育種および有用成分生産への応用
- n) 藻類と高等植物の遺伝子操作

（3）実習

a) 基礎実習

I. 微生物培養法

- 1) 滅菌法
- 2) 培養技術
- 3) 集菌・洗浄

II. 核酸の抽出・分離技術

- 1) トータルDNAの抽出
- 2) プラスミドの抽出
- 3) プラスミドの分離

III. タンパク質の精製と抗体の作成

- 1) タンパク質の精製
- 2) 抗体の作成
- 3) 抗体の検出

IV. 核酸・タンパク質の電気泳動技術

- 1) アガロースゲル
- 2) アクリルアミドゲル

V. 形質転換法

- 1) エレクトロポレーション法

VI. DNA酵素処理技術

- 1) 制限酵素処理技術
- 2) ライゲーション
- 3) リン酸化

VII. 形質転換体の産物の検出と同定

- 1) プレート技術 (X-Gal の検出)
- 2) ELISA
- 3) ウェスタンブロッティング法

VIII. PCR法によるDNAの増幅

IX. 核酸・タンパク質の配列決定

b) 応用実習

- I. 転換酵母による澱粉からのアルコール発酵
- II. 植物培養細胞のアグロバクテリウムを用いた形質転換
- III. 遺伝子銃による形質転換
- IV. コンピュータ解析法
- V. 機器分析の方法 (アミノ酸分析、アミノ酸配列、イメージアナライザー)
- VI. RI 実習 (一時立入り)
- VII. 自由研究

(4) 見学

地球産業技術研究所 (京都)

農林水産省果樹試験場安芸津支場 (広島県安芸津)

大阪府立農林技術センター (羽曳野市)

大阪府立大学附属研究所 (生物資源センター含む) (堺市)

近畿大学農学部 (奈良)

奈良先端技術大学院大学 (奈良)

農林水産省農業生物資源研究所 (つくば市)

日本たばこ産業株式会社 (静岡)

その他

1. コース名等

- | | |
|-------------|---|
| (1) コース名 | 和文 植物遺伝資源
英文 Plant Genetic Resources |
| (2) 設立年度 | 昭和57年度 |
| (3) 定 員 | 6 名 |
| (4) 研修期間 | 平成11年5月3日～平成11年10月29日(6ヶ月) |
| (5) 受入れ研修機関 | 農林水産省 農業生物資源研究所 |

2. コースの目的・背景

(1) コースの目的

開発途上国における植物遺伝資源分野の研究者に対して、我が国における最新技術、研究成果を紹介するとともに専門的な個別研修を実施することにより、同分野の研修者の育成を図ることを目的とする。

(2) コースの背景

現在、開発途上国の多くが直面している食糧問題解決の基本となる、作物育種素材の保存と開発方策の強化及び農業の近代化にともなう植物遺伝資源の喪失を防ぐため、その保存管理体制が世界的規模で確立されることが望まれている。国際植物遺伝資源理事会(IBPGR、現国際植物遺伝資源研究所、IPGRI)は、開発途上国における当該分野の強化を目的に、1981年日本に対し、アジア・太平洋地区の開発途上国を対象とした植物遺伝資源保存に関する研修を行うことを要請した。これを受け、国際協力事業団と農林水産省農林水産技術会議事務局との間で研修コース開設について検討がなされ、1982年に農業技術研究所を主な受入機関として本研修コースが開始され、その後機構改革により農業生物資源研究所に引き継がれた。

平成3年度からは研修期間を6ヶ月間に延長し、日本語集中講習(50時間)を加えたほか、研究成果のまとめができるよう、研修ニーズに即した専門(個別)研修を拡充することとした。

3. 到達目標

研修員が研修期間修了までに、次の知識・技術を習得すること。

- (1) 世界的及び地域的規模における植物遺伝資源保存に係わる現在の動向についての総合的知識
- (2) 植物遺伝資源探索・収集・評価・保存・利用およびデータ処理についての総合的知識および技術
- (3) 研修員の自国での活動と植物遺伝資源にかかる国際協力の理解

4. 研修項目・研修方法

(1) 研修方法

- ① 研修は講義、実習、レポート作成及び研修旅行により行う。
- ② 講義、実習の大部分は農業生物資源研究所で行う。
- ③ 講義、実習は、遺伝資源種子・栄養体の保存、遺伝資源情報の管理、育種素材、国際的な遺伝資源の移動にともなう植物検疫の問題及び栄養系からのウイルス除去等を重点に行う。

(2) 研修項目

本コースでは、次の諸項目について研修する。

1) 講義

① 概論

植物遺伝資源保存に関する現在の国際活動と日本における植物遺伝資源、動物遺伝資源及び微生物遺伝資源の各部門の事業について理解する。また、遺伝資源に関する試験研究及びジーンバンク事業における農業生物資源研究所の役割と活動について理解する。

② 植物遺伝資源管理の基礎

植物遺伝資源の探索と収集の方法について学ぶとともに、日本の海外遺伝資源探索の現状と日本における遺伝資源賦存状況と収集の現状を理解する。

③ 遺伝資源植物の評価

遺伝資源植物の病害診断方法及び病害虫からの保護技術を学ぶとともに、日本における植物防疫活動の現状について理解する。

④ 植物遺伝資源の保存方法

植物遺伝資源の保存方法の概略を学ぶとともに、特に、植物遺伝資源の新しい保存方法として、超低温保存、培養系保存、木本性作物等の保存方法を学ぶ。

⑤ 植物遺伝資源の管理

植物遺伝資源管理の原理、植物遺伝資源管理の基礎となる種子の発芽生理及び植物遺伝資源情報管理技術を学ぶ

⑥ 植物遺伝資源の作出・利用

バイオテクノロジー等を利用した日本における植物遺伝資源作出の最近の成果を学ぶとともに、植物遺伝資源の評価と利用を作物育種との関連において学ぶ。

⑦ 植物種類別遺伝資源の保存・評価・利用

日本の植物遺伝資源の代表的な種類である稲類、麦類、豆類、ルーツ・クロップ、雑穀・特用作物、牧草・飼料作物、果樹、花き、緑化植物、茶、桑、林木、熱帯・亜熱帯植物の保存・評価・利用の現状について

理解する。

2) 個別研修

研修員は下記の分野からテーマを専攻し、約3ヶ月にわたり当分野の基礎的な理論を学ぶとともに実地的な技術を習得する。

- ① 遺伝資源の同定および特性判別
- ② " 評価
- ③ " 保存
- ④ " 利用
- ⑤ " 管理

3) 見学

講義を補完し、視野を広げるため以下の研修室及び研究機関等を見学する。

- ① 農業生物資源研究所の関連研究室、ジーンバンク関連施設及び放射線育種場
- ② 国公立の農業試験研究機関
- ③ 植物遺伝資源関係の大学及び付属研究機関
- ④ 植物遺伝資源関係の施設
- ⑤ 民間の関係研究機関

5. 研修員参加資格要件

(1) 人選方法及び選考基準

参加希望国政府が General Information (応募案内書ー以下「G.I.」という) に応じて提供した要請書類に基づき、国際協力事業団筑波国際センター (TBIC) と農林水産省農業生物資源研究所の関係者がG.I.に記載の研修参加資格要件を基準とし、協議し人選を行う。

(2) G.I.に記載の参加資格要件は次のとおり。

- ① 自国政府からの推薦を受けた者であること。
- ② 大学卒業者又は同等の資格を有していること。
- ③ 植物遺伝資源分野の研究者で3年以上の経験を有していること。
- ④ 25才以上35才以下。
- ⑤ 研究に必要な十分な英語力を有していること。
- ⑥ 心身ともに健康であること (女性の場合は妊娠していないこと)。

(3) 割当国及び受入れ国 (割当国8ヶ国、受入れ国6ヶ国)

アジア地域 (2ヶ国) ……インドネシア、スリ・ランカ

中東地域 (2ヶ国) ……イラン、シリア

アフリカ地域 (1ヶ国) ……モーリシャス

中南米地域 (4ヶ国) ……アルゼンティン、チリ、ペルー、ウルグアイ

付表-1

コース概念&カリキュラム・フロー図

植物遺伝資源コース

研修目的

開発途上国における植物遺伝資源分野の研究者に対して、わが国における最新技術、研究成果を紹介するとともに専門的な個別研修を実施することにより、同分野の研究者の育成を図る。

対象者

植物遺伝資源分野の研究者で
3年以上の経験を有する者
大学卒業者またはそれと同等
の学力を有する者
研究に必要な英語力を有
する者

世界的及び地域的規模における植物遺伝資源保存
に関わる現在の動向について

(講義)

概論

- 1 植物遺伝資源をめぐる国際情勢
- 2 植物遺伝資源の包括的ニーズと
IPGRIの役割
- 3 日本の植物遺伝資源事業
- 4 日本の微生物・動物遺伝資源

(見学)

農業生物資源研究所内関連施設
国公立の農業研究機関
大学および付属研究機関
民間の関係研究施設

(研修旅行)

北海道方面
中国・近畿方面

ジョブレポート発表

植物遺伝資源探索・収集・評価・保存・利用及び
データ処理についての総合的知識および技術

(講義)

探索収集

- 1 植物遺伝資源(草本)について
- 2 植物遺伝資源(木本)について
- 3 植物遺伝資源の現地保存

評価保存

- 1 ルートクロープ遺伝子について
- 2 稲類遺伝資源について
- 3 果樹遺伝資源について
- 4 野菜遺伝資源について

管理利用

- 1 植物遺伝資源の管理
- 2 植物遺伝資源の情報管理
- 3 植物遺伝資源の病害診断
- 4 遺伝資源と生物工学
- 5 放射線照射による新遺伝資源の作出

(研修旅行)

野外探索実習

評価

研修目標の達成状況について
次年度へのフィードバック

研修員の自国での活動と植物遺伝資源に係る
国際協力の理解

(講義)

概論

生物資源共同研究

(見学)

農業生物資源研究所内関連施設
国公立の農業研究機関
大学および付属研究機関
民間の関係研究施設

(実験・実習)

基礎実験

- 1 植物由来蛋白質精製
- 2 蛋白質電気泳動
- 3 DNA抽出技術
- 4 DNA電気泳動
- 5 PCR技術

(個別研修#)

植物遺伝資源の同定及び特性判別
植物遺伝資源の評価
植物遺伝資源の保存
植物遺伝資源の利用
植物遺伝資源の管理

#課題を選択する

別添「ウルグアイ植物遺伝資源分野個別専門家要請書」(一部抜粋)

別票2: 個別専門家派遣要請案件調査票	対象事業	・ 専門家派遣事業(個別)
---------------------	------	---------------

国名 ウルグアイ

1. 指導科目	(和) 農業遺伝資源研究開発 (英) Agricultural Genetic Resources Investigation Development		
2. 新規継続区分	新規 継続(任期延長・後任派遣) * 後任の場合: _____ 代目	3. 前任者名(継続の場合)	
4. 期間×人数(時期)	期間 3カ月×人数 1名 (11年 8月より) 期間 _____ カ月×人数 _____ 名 (_____ 年 _____ 月頃派遣)		
5. カテゴリー	政策助言・行政制度整備・調査研究・適正技術開発・技術普及・セミナー		
6. 関連事業名	事業名 (_____) 関連性 (_____)		
7 配属機関	(和) 国立農牧研究所(INIA) (西) Instituto Nacional de Investigacion Agropecuaria (INIA).		
8. 活動場所	首都 モンテビデオ市郊外(約45Km) INIAラスブルハス試験場		
1. C/P役職 及び人数	INIAバイオテクノロジー研究室長及び研究員1名。		
2. 要請の背景	ウルグアイの基幹産業は農牧業であり、輸出の約80%が農牧産品及びそれを原料とする農産加工品により占められている。政府は、この比較優位性の高い産業の開発を政策の重点としているが、右を進めるためには品種の改良等の技術開発を通じる以外に道はない。このニーズに対応して上記INIAは傘下の5農事試験場においては伝統的に牧草改良を通じての食肉、羊毛生産の改善及び主要農作物の品種改良に取り組んで来ている。また1986年7月より93年まで実施された我が国のプロ技協(果樹研究計画)により建設された組織培養棟と供与機材を基礎としてバイオテクノロジー研究室を創設した。これと併行して現在の世界的な遺伝資源研究ブームに刺激され、これまでの各試験場における地域毎の担当作物の縦割りの品種改良のみならず、同バイオテクノロジー研究室を核として、遺伝資源を活用した牧草、穀類、米、野菜、果物、ユーカリ等の主要作物を網羅する横割りの品種改良研究に着手することを決定した。しかしながら同テーマはあまりにも膨大であり、これを整理し、現在のウルグアイ側の能力に応じた研究から着手し、その効率をあげる必要があるため、この分野に経験の豊富な専門家により、同研究開発のためのオリエンテーションを受けることを必要としている。		
3. 派遣の目標	ウルグアイにおける遺伝資源研究の状況を調査、診断し、同国に最も適した品種改良研究テーマの整理、順序立てを通じて、効率的で合理的な研究開発の指針を与える。		
4. 期待される成果	ウルグアイ側による遺伝資源研究を通じての品種改良研究が開始される。		
5. 活動内容 (専門家毎に記載)	(1) ウ国における遺伝資源研究状況の視察及び診断。 (2) ウ国独自の遺伝資源の把握及びその活用の可能性の診断。 (3) ウ側の希望する主要農産物遺伝資源開発の可能性の検討。 (4) ウ側の研究体制の評価。 (5) 上記(1)～(4)を総合しての今後のウルグアイに最も適した研究テーマの選定及び助言。 (6) 以上を総合してのウルグアイ側の総合的研究開発プログラムの策定。		

別添「ヴェネズエラ植物遺伝資源分野個別専門家要請書写」(一部抜粋)

別添 2: 個別専門家派遣要請案件調査票	対象事業	専門家派遣事業(個別)
----------------------	------	-------------

国名ヴェネズエラ

1. 指導科目	(和) 植物培養及び遺伝子資源研究 (英) BIOTECHNOLOGY AND PLANT GENETIC RESOURCES		
2. 新規継続区分	(新規)・継続(任期延長・後任派遣) *後任の場合: _____代目	3. 前任者名(継続の場合)	
4. 期間×人数(時期)	期間 24カ月×人数 1名 (11年7月頃派遣) 期間 月×人数 名 (年 月頃派遣)		
5. カテゴリー	政策助言・行政制度整備・調査研究・適正技術開発 (技術普及) セミナー		
6. 関連事業名	事業名() 関連性(相手国と機関対象地域)		
7. 配属機関	(和) 農牧省 農牧研究所 NATIONAL AGRICULTURAL RESEARCH FUND (英) MINISTRY OF AGRICULTURE AND LIVESTOCK. (FONAIP)		
8. 活動場所	(首都から 150 km)		
1. C/P役職及び人数	DRA. ELENA MAZZANI 培養学研究員 他2名		
2. 要請の背景	FONAIP は、同研究所が進めてきている植物遺伝プログラムの為、植物遺伝資源を過去数年に渡って収集してきているところ、その蓄積したデータ及び同遺伝資源を元に、同植物資源の収集、隔離、長期保存、形態及び分子の特徴に係わる研究を目的としたヴェネズエラにおける植物遺伝資源の研究計画の実施を予定しているが、当国には本件分野で十分な経験と知識を有する者がいない為、本件分野で豊かな知識と技術を持つ我が国に協力を要請越したもの。		
3. 派遣の目標	本件専門家の技術協力を通じて、本件分野での同研究所の研究員の調査研究能力を向上させる。		
4. 期待される成果	本件分野での技術移転を通じて、同研究所の研究能力が向上すれば将来的には当国の農業産品の生産性向上及び品質改善等にも貢献する事が出来る。		
5. 活動内容 (専門家毎に記載)	1. 植物遺伝資源の収集方法、導入及び隔離に関する技術指導 2. 同資源長期保存技術、形態及び分子の特長に関する研究に関する指導 3. 植物遺伝資源の培養技術に係わる指導		